

科目ナンバー	C6103	要件	学則必修	授業形態	講義	対象学生	ⅡAⅢCD
授業科目	教育心理学						
実施期	後期	単位数	2単位	授業担当者	高橋 千香子		
【科目の概要】							
<p>教え、育むという営みにおける心の働きを心理学的視点から理解し、保育や幼児教育の実践に生かすための基礎的な知識や方法について学ぶ。</p>							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	保育実践に生かせる教育心理学の基礎的な知識を身に付けている。						1-d
イ	教育心理学の知見を用いて子どもへの効果的な関わりについて考えることができる。						3-C
ウ	子どもの不適応行動や症状を理解し、適切な関わりや援助の方法を考えることができる。						3-C
エ	心理学の知見を用いて自己を理解し、より望ましい保育者のあり方を追求しようとしている。						4-b
【授業の内容】					【実施日】	【授業時間外学習の内容】	
1	教育心理学とは			月 日	シラバスをよく読んでおく。		
2	発達の原因と段階			月 日	保育の心理学で学んだ「発達」について復習する。(0.5時間)		
3	乳幼児期の認知発達①			月 日	乳幼児期の認知発達について復習する。(1時間)		
4	乳幼児期の認知発達②			月 日			
5	性格とは			月 日	自分の性格傾向について考え、振り返っておく。		
6	性格はどのようにつくられるか			月 日	性格形成についての諸理論を復習する。(0.5時間)		
7	性格検査を体験する(体験学習)			月 日	性格検査の自己分析レポートに取り組む。(2時間)		
8	学習と動機づけ(獲得を目指す力の確認)			月 日			
9	しつけとは～コモンセンス・ペアレンティングの紹介			月 日	しつけとは何かについて自分なりの考えを整理しておく。		
10	適応とその機制			月 日	防衛機制の種類や特徴について復習する。(0.5時間)		
11	教育相談の実際			月 日	カウンセリングについて学んだことを事前に思い出しておく。		
12	子どもの不適応と援助① 心のトラブルのあらわれ方			月 日	子どもの不適応行動や神経性の症状についてまとめ、援助の方法を整理する。(1時間)		
13	子どもの不適応と援助② 登園拒否・場面緘黙など			月 日			
14	クラス集団における指導(グループ討議および意見発表)			月 日	クラス集団をどのように理解し教育していくか、自分の考えを整理する。		
15	確認試験とまとめ			月 日	これまでの学習を振り返り、確認試験に備える。		
16				月 日			
【教科書・テキスト】 プリント教材を使用する。				【成績評価の方法】 授業態度(聞く姿勢、発言)20%、課題(ミニテスト、レポート、振り返りを含む)40%、確認試験 40%			
【参考書・教材】 「学びと教えで育つ心理学－教育心理学入門－」 小林芳郎編著 保育出版社 「やさしい教育心理学(第3版)」 鎌原雅彦他著 有斐閣 其他適宜紹介する。							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
【履修上の遵守事項】 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先: N3研究室、takach25@narabunka.ac.jp オフィスアワー:							

＜チェックシート＞					
		基準	レベル1	レベル2	レベル3
指標					
ア ①	子どもの認知発達についての基礎知識		ピアジェの認知発達理論におけるいくつかの概念の名称を言える。	ピアジェの認知発達理論における各段階の特徴について説明できる。	子どもの認知発達過程について正しく理解し、具体的なエピソードを用いて説明できる。
ア ②	「性格」についての基礎知識		「性格」とは何かについて説明できる。	性格の理論および形成過程について、簡単に説明できる。	子どもの性格形成に対する保育者の影響と役割について考えることができる。
イ ①	動機づけ理論についての基礎知識		内発的・外発的動機づけについて説明できる。	内的・外的統制、自己効力感について簡単に説明できる。	動機づけ理論に基づき、子どものやる気を高める教育方法を考えることができる。
イ ②	教育相談についての基礎知識		保育者が行う教育相談について、おおよそ説明できる。	幼児期のいじめの特徴と対応について説明できる。	個々の子どもまたはクラス集団への効果的な関わりを考えることができる。
イ ③	親支援プログラムへの理解と応用		なぜ今、親支援プログラムが有効なのか、簡単に説明できる。	コモンセンス・ペアレンティング・プログラム(CSP)について簡単に説明できる。	CSPの考え方を自らの保育や保護者支援に生かそうとしている。
ウ ①	子どもの不適応行動と援助への理解①		子どもの神経症について、いくつかの名称を言える。	いくつかの神経症の症状の特徴と援助の留意点について簡単に説明できる。	個々の子どもの神経症の要因や背景を理解し、適切な援助を考えることができる。
ウ ②	子どもの不適応行動と援助への理解②		子どもの登園拒否、場面緘黙についておおよそ説明できる。	登園拒否、場面緘黙の子どもを援助する際の留意点を説明できる。	個々の子どもに沿って要因や背景を理解し、適切な援助を考えることができる。
エ	性格検査による自己理解と保育者としての向上		性格検査を適切に受け取ることができる。	性格検査の結果を分析し、結果をまとめることができる。	性格検査の結果を自己理解につなげ、保育者の仕事に生かそうとしている。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					